

～ ある日の鬼瓦物産(ファンシー雑貨販売業)その4～

『限界ってのは、超えるためにあるのよ。』

- 経理くさたべ君 モ～。わかんねえ～。限界だ～。
- デザイン部 美樹 くさたべ君。何してるの？もう、誰もいないわよ。
- 経理くさたべ君 ああ、美樹ちゃん。お疲れさま。俺、自分に限界感じちゃってー。
鬼瓦社長が、「経理とは何か？」とか「会社にとって重要な事は何か？」って話してくれるんだけど、半分しか理解できないんだ。
- デザイン部 美樹 なんだか、たいそうね。何これ？
ああ、試算表ね。へー、ウチの会社って、こんな感じなんだあ。
- 経理くさたべ君 え？美樹ちゃん、わかるの？
- デザイン部 美樹 私、商業高校だったから。修学旅行代貯めるのに事務のアルバイトもしてたしね。もち、学校には内緒だったけど。で、社長は何て言ってるの？
- 経理くさたべ君 うーん。色々あるんだけど「赤字だと金が無くなる。」とか「缶コーヒー代は返さないけど借入金は返せ。」とか「お前のボーナスは無した。」とか。美樹ちゃん、どうしよう。温泉、行けないかも。うえーん。
- デザイン部 美樹 男がメソメソ泣くんじゃないの！それでも金玉ついてんの？社長からのミッションは何？
- 経理くさたべ君 先月分の試算表を早く作れって。
- デザイン部 美樹 それだけなの？売上や仕入のデータは？月末の棚卸表は？経費の明細は？みんな、この山の中にあるのね。小口現金の締めだけ出来ていない？それ、いくら？2万円……？
くさたべ君……。ふざけてないで、やろうよ。
- 経理くさたべ君 やろうよって言われても、資料全部そろわないと始められないよー。
- デザイン部 美樹 一寸待って。データは全部あるわ。正確な数字が無いのは、小口現金だけでしょ。それ位、無視してもいいわ。
- 経理くさたべ君 えー！乱暴な！そんなんじゃ又、社長に怒鳴られちゃう。
- デザイン部 美樹 あの人には怒らないわ。仕事については、いつも真っすぐ。そういう人なの。こっちの気持ちなんか全然気づかないんだから。(遠くを見つめる。)
- 経理くさたべ君 あの一、本当にいいの？無視して。でも、なんで放つといてもいいのかなあ？
- デザイン部 美樹 あっても無くても、社長の意志決定には影響しないからよ。
- 経理くさたべ君 へーそうなんだ。でも、それでいいなら、なんとかやれるかも。
- デザイン部 美樹 じゃあ、ガンバってねー。
- 経理くさたべ君 えー！手伝ってくれるんじゃないの？
- デザイン部 美樹 私と、温泉、行きたいんでしょ？それくらい一人で乗り越えて来なさい。そしたら考えてあげる。
- 経理くさたべ君 うえーん。僕もう、限界なんだよー。
- デザイン部 美樹 くさたべ君、覚えておいて。「限界ってのは、ある意味、超えるためにあるのよ。」